

## 令和7年度 学校評価表（中間）

三原市立沼田東小学校(校番12)

a 学校教育目標		夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成 ～目標をもつ、チャレンジ、思いやり～		<p>【ミッション】志を抱き、その実現に向け、行動できる『未来の作り手』の育成 【ビジョン】「夢や目標の達成に向け、ともに伸びる子供の育成」 「くめざす学校像」&gt;協働し「ともに伸びる」という教育風土のある学校 「くめざす子ども像」&gt;「共感的なかかわり合いを通して、ともに伸びよう」とする子供 「くめざす教職員像」&gt;「ともに伸びよう」とする児童の育成に向け、協働、切磋琢磨する教職員</p>										
評価計画			自己評価							改善方策			学校関係者評価	
c 中期 経営 目標	d 短期経営 目標	e 目標達成のための具体的方策	f 評価項目	目標値	10月 h 達成 値	2月 h 達成 値	i 達成 度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ ロ ハ	m コメント		
確かな学力 主体的に考え、深い学びを追究する児童の育成	授業力の向上	○学習規律の徹底 ○書かせたいR80から逆算思考で授業の構成を考え、「問い合わせ」「対話」を取り入れた児童が主体的に学ぶ単元・授業 ○児童の思考をファシリテートする	○教職員アンケート 22「1単位時間の授業では、「問い合わせ」「対話」を取り入れた授業を構成し、展開している」 25「全教科R80を実施している(作成2分、ペアシェアリング1分、全体シェアリング2分)」 30「授業において、児童にICT機器を効果的に活用させている(または児童に選択させている)」	授業をもつ教員平均肯定的評価 4.3以上(5段階評価)	4.2		97%	B	○各項目の平均値 授業構成 4.2、R80の実施 4.5、ICTの活用 4 1単位時間において「問い合わせ」「対話」と問い合わせられた授業づくりに課題があるといえる。また、ICTをいかに効果的に授業を取り入れるかの課題がある。	○授業づくり 単位時間及び単元構成を見通した授業づくりの推進…単元及び、各時間で付けていた力を具体的に想定する。 ○対話 授業の中で児童から引き出したい言葉を具体的に想定した対話の場づくり ○ICTの活用 デジタル教科書の効果的な活用、児童が実操作する場面の設定	4	・適正に評価されている。 ・全国学力・学習状況調査の結果(全国平均以上)の達成値だけ見ると、66%というほどで心配である。重点を決めしていくなど、目標をもつて明確にした方がよいのではないかと感じた。達成度の低い社会を底上げするとか、得意な教科を引っ張り上げるとできるといよいではないか。 ・数値で評価しないといけないため、66%ということになっていると思う。学ぶ姿勢が学力定着につながる。その素地はきちんとつくれている。達成度が30%の児童が60%にというように少しでも上がっているかなどを見取ることが必要である。「がんばるぞ」「わかったぞ」という意欲を高めていったり少しでも増やしていくければよいのではないか。授業を参観して、どの学級も学ぶ素地が付いていることをうれしく感じた。		
			○授業研事後検討アンケート 「問い合わせ」の設定により、児童は最後まで考えていたか 「対話」の場面において、児童は相手の意見によって価値の変容あるいは確立を図っていたか	事後検討アンケート平均 3.5以上(4段階評価)	問い合わせ 3.5 対話 3.3	問い合わせ 100% 対話 94%	B	○授業研事後アンケート(3授業平均) 問い合わせの設定については、目標達成できたが、対話への手立てについては課題が残った。 上記教職員アンケート結果と研究授業の評価の結果の数値の乖離が見られ、研究授業で学んだ指導や手立ての方策を、いかに日々の授業に還元するかが課題である。	○日々の授業への還元 研究授業参観者が「自分ならどうするか」「学年年にどのように還元できるか」を共有する場を設定する。	4	・数値で評価しないといけないため、66%ということになっていると思う。学ぶ姿勢が学力定着につながる。その素地はきちんとつくれている。達成度が30%の児童が60%にというように少しでも上がっているかなどを見取ることが必要である。「がんばるぞ」「わかったぞ」という意欲を高めていったり少しでも増やしていくければよいのではないか。授業を参観して、どの学級も学ぶ素地が付いていることをうれしく感じた。			
			○児童アンケート 1「学校の授業では解決したい、できるようになりたいと思う」 3「授業では、課題解決のために最後まで考えている」 6「算数では、ペアやグループで、図や表・式などを使って、友達に自分の考えを表現している」 7「算数では、ペアやグループで友達の考えを聞いて、自分の考えと比べ、考え方を変わったり自分の考えに自信を持ったりしている」	平均80%		94%	117%	A	○児童アンケート 各項目の平均値は次の通りである ・学習意欲に関する項目 1 96.7% 2 97.5% ・算数に関する項目 6 92.2% 7 90.5% いずれの項目も目標値を超えており、学習意欲全般に対して算数授業への肯定的評価が低いことが課題である。	○算数に対する学習意欲の向上および対話的な学びの実現 全員が「わかる」「できる」授業づくりと、基礎的学力の徹底を通して、どの児童も学習に参加できる土台づくり	4	・数値で評価しないといけないため、66%ということになっていると思う。学ぶ姿勢が学力定着につながる。その素地はきちんとつくれている。達成度が30%の児童が60%にというように少しでも上がっているかなどを見取ることが必要である。「がんばるぞ」「わかったぞ」という意欲を高めていったり少しでも増やしていくければよいのではないか。授業を参観して、どの学級も学ぶ素地が付いていることをうれしく感じた。		
	基礎学力の定着	○「学力分析事業」を活用し、学力調査の結果を取り入れた授業改善の実施 ○朝学習の時間の活用 ○文曜日5、6校時活用による学力調査40p ○以下児童への対応 ○読書の推進	○全国学力学習状況調査の結果、全国平均以上	3/3教科	2/3教科	66%	C	○単元末(学期末)テスト結果(85点以上の児童の割合) 【知識・技能】国語69.2%、社会59.4%、算数69.2%、理科65.8% 【思考・判断・表現】国語61.7%、63.2%、算数53.3%、理科43.9%	○基礎学力の徹底と向上「茶ンタイム」「茶レンジタイム」を効果的に活用し、基礎学力の徹底をはかる。	4	・数値で評価しないといけないため、66%ということになっていると思う。学ぶ姿勢が学力定着につながる。その素地はきちんとつくれている。達成度が30%の児童が60%にというように少しでも上がっているかなどを見取ることが必要である。「がんばるぞ」「わかったぞ」という意欲を高めていったり少しでも増やしていくければよいのではないか。授業を参観して、どの学級も学ぶ素地が付いていることをうれしく感じた。			
			○学力調査の結果、全教科(国語、算数、理科)全国平均より+3ポイント以上	90%以上				両親とも、目標値を大きく下回った。特に、算数、理科における知識・技能と思考・判断・表現の乖離が大きく、「学んだことを生かす」ことに課題がある。						
			○単元末テストの結果(国語、社会、算数、理科)85点以上	80%以上	知65% 思55%	知81% 思68%	C							
豊かな心 自他を尊重する心情・態度の育成	規範意識の育成	○沼田東小5つの柱(「靴揃え」「挨拶」「時間厳守」「右側歩行」「黙って掃除」)を守る ○児童会、委員会活動による規範意識の向上の取組 ○生徒指導規程の定期的な見直し	○教職員アンケート 11「児童の変化を見逃さず、人を大切にする指導を徹底して行っている」 12「沼田東小5つの柱(挨拶、右側歩行、無言掃除、履物揃え、時間厳守)について、児童にやり切らそうと、指導や声かけを行っている」	授業をもつ教員平均肯定的評価 4.3以上(5段階評価)	4.4		102%	A	どちらも目標を上回ることができた。 ①教職員アンケートで5段階中4や3を付けた教員の意識。 ②児童アンケートの結果と実態の差。 一いつでもどんな場面でも、きちんとできているわけではないが、肯定的な評価をしている児童が多い。	①定期的な交流の場の設定 ・研修等でペテラン教員の取組事例の紹介 ・若手教員の研修報告 ・お悩み相談会の実施 ②学校生活の多様な場面の画像や動画の活用 ・質の高いモデルを視覚化し分かるようにしていく。 ・児童会役員から結果のファーブック ・各委員会・各学級で取組内容を参考	4	・適正に評価されている。 ・地域でも挨拶をよくしている。		
			○児童アンケート 10「生活のきまり」やルールを守って生活している 11「沼田東小5つの柱」を全て守っている	平均85%		97%	114%	A	どれも目標を上回ることができた。	①教職員アンケートで5段階中4や3を付けた教員の意識。 ②学習環境調査A群の児童の割合が低い。				
	共感的なかかわり合いによる学習集団づくり	○学習環境調査の結果の活用による、特別活動(学校全体、学年会活動)の効果的な活用 ○コミュニケーションスクールを中心に、地域や社会がよくなるために自分がすべきことを考える時間を設ける。	○教職員アンケート 15「特別活動を通して、児童の主体性や人間関係形成能力を育成し、学習集団づくりを行っている」	教諭の肯定的評価平均 4.3以上	4.4		102%	A	どれも目標を上回ることができた。	○チーム沼田東として「みんなで支え合い、みんなで育てる」という意識のもと、全教職員で児童に積極的に関わる。 ○スマイル班活動(縦割り班活動)での清掃活動や月に1回のスマイル班遊びを充実させ、多くの児童と関わる機会を持たせる。 ○総合的な学習の時間や生活科の学習を充実させるために、コミュニケーションスクールを活用するとともに、地域に貢献できる活動を取り入れ、地域に発信することができる取組を積極的に行う。	4	・適正に評価されている。		
			○学習環境調査の結果、【個人の心の安全 自己肯定感】 【学級適応感】A・B群の児童の割合 ○児童アンケート 12【1・2年生】沼田東の町や町の人にについて、もっと知りたい、行ってみたいと思っている。 12【3～6年生】沼田東の地域や、社会にどんなことができるか考えている(実行している)	80%以上	84.0%		105%	A						
健やかな体 生涯によどたつする態度の育成	生涯にわたって運動しようとする態度の育成	○休憩時間の外遊びの奨励 ○楽しく、運動量がある体育科の授業 ○体力テストの課題「握力」「ボール投げ」解消のためのサーキットトレーニング、ACPの活用	○児童アンケート 17「休憩時間は外で体を動かすことが好きだ」	85%以上	73%		86%	B	○目標値を上回ることができなかった。 ・学年が上がるにつれて評価が低くなり、高学年の肯定的評価は53%。 ・外遊びの奨励を引き続き行っていくこと。	○外遊びの奨励 ・体育委員会を主とした活動や、学校行事(大縄大会等)と関係付ける等、学校全体で外遊びを奨励する活動を仕組む。 ○体育科の授業 ・ゲーム性のある運動を取り入れることで、楽しく活動できるようにする。 ・基礎的で簡単な動きに取り組ませたり、自分の力に合わせた場を選択したり、場の設定を工夫したりすることで、できる喜びを味わわせるようにする。	4	・適正に評価されている。 ・外遊びをしている児童は少ないのか。 ・室内ではどのようなことをして過ごしているのか。 ・沼田東の児童は通学の運動量は多いと思う。統合でバス通学になった学校では運動量はすいぶん違う。歩いて登下校すれば運動量が上がると思う。		
			○児童アンケート 18「体育の授業は楽しく体を動かしている」	85%以上		95%	112%	A	○目標値を達成することができた。 ・体育科の授業において、ICTを活用したりゲーム性のある運動を取り入れたりすることで楽しく活動できている。	・自分自身で目標を立てさせたり、その目標に向かって学習内容を決定させたりすることで、個々の目標に向かって意欲的に学習を取り組めるようにする。 ・ICT機器を効果的に活用し、動画を撮影したり動きのコツを調べたりすることで、課題発見や互いに繋がることでつなげていける体育科の授業を行う。				
			○体育の授業におけるサーキットトレーニング、ACPの実施	100%		89%	89%	B	○目標値を達成することができた。 ・体力向上のため、毎時間実施するという職員の意識。 ・体力テストの結果から立ち幅跳び、反復横跳び、走力の向上を目指した内容を主として実施する必要がある。	○サーキット、ACPの実施 ・職員研修等で実施内容を交流することで、基礎体力の向上を目指していく。				
信頼される学校 校長のビジョンによる教職員の具体的な育成達成しよう	主任を中心とした機能的協働的な組織による校務運営	○学校運営に積極的に参画する職員 ○主任を中心とした月1回の部会を活用し、校務を円滑に遂行	○教職員アンケート 3「学校目標の達成に向け協働し、教育活動を行っている」 3「自己の職務について、自己の責任として遂行している」	教職員の肯定的評価平均 4.8以上	4.7 4.7		98%	B	○どちらも目標値を上回ることができなかった。 ・主任を中心とした公務の遂行は概ねできているが、他の学年や分掌への関わり。 ・児童にやり切らせる指導を全体で徹底して行うこと。	○週2回の暮会を活用して教職員全員で取り組むことを周知。 一方向性を統一した取組を徹底して行う。 ○お悩み相談会を計画的・定期的に実施。 一教職員間の悩み(教材研究や生徒指導面等)に積極的にアドバイスを行う。	4	・適正に評価されている。 ・時間外勤務時間月平均45h未満であるが、施設目標は決めているのか。 ・子ども達は早い子は7時には家を出るから、そこから学校の管理下に入るのでも大変だと思う。先生方が早く帰ることができる雰囲気作りがでていることがよい。		
			○教職員アンケート 5「主任として、学年や部を主体的に運営し、他の職員を指導、支援し人材育成を行っている」(主任のみ)	主任の肯定的評価平均 4.3以上		4.3		100%	A	○目標値を達成することができた。 ・欠員が出た際のフォローの在り方。	○引き続き各部会、学年主任会を1か月1回開催し、進捗状況の確認。 一それぞれの仕事内容を共有するだけでなく、困り感も出し合える会とする。 一自己の仕事に責任をもつつ、互いに支え合う風土づくりに努める。	4		
	働き方改革による子供と向き合つ時間の確保	○全職員が時間外在校時間、平均月45時間未満を達成 ○ボトムアップによる業務改善案の提案	○全教職員が、時間外勤務時間、月平均45時間未満達成	100%	100%		100%	A	○4～9月 21名達成(100%)達成。 ・時間意識しながら業務を遂行することができている。主任・主事の動きが模範となっている。	○木曜日の成績処理タイムを有効に活用する。主任・主事を中心に学年部の業務のバランスを意識できるように声かけを続けていく。	4			
			○教職員アンケート 10「業務改善の視点で、学校行事等の削減、縮小を意識し、実行することができている」	教職員の肯定的評価平均 4.3以上		4.3		100%	A	○前年度の取組の見直しを学校経営会議や各部等で行うで、業務改善につながっている。	○各行事で児童に付けていた力を明確にした上で、業務改善とのバランスを考えていく必要がある。	4		